

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	3
学校名	富山県立新川みどり野高等学校

学校の現状と課題	様々な悩みや問題を抱えている生徒、不登校を経験したことのある生徒等、多様な生徒が学んでいる。学校生活を通して、基礎学力や社会的自立のために必要な能力を養うだけでなく、卒業後は地域社会の一員として、地域に求められる人材を育成することが課題である。	
テーマ(特色)	多様な生徒の社会的自立と地域への貢献	
設定した「テーマ」の達成状況	(1) 生徒理解の推進 特別支援教育研修会を軸に全教職員が生徒理解を深めることができた。 (2) 特別活動の活性化 学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、ボランティア活動、家庭クラブ活動を通して多くの生徒が自己有用感を実感することができた。 (3) キャリア支援の充実 就業体験等を通して、地域社会に求められる人材と現在の自己を比較することができ、進路選択に活かすことができた。	
実施内容 (具体的に記入する)	(1) 生徒理解の推進 ・特別支援教育研修会: 支援対象生徒について、教育支援目標、取組、成果、今後の課題等を確認し共有した。また、個別の事例報告や外部講師による講演・演習により職員の資質向上に努めた。 ・関係職員によるケース会議等で生徒理解を深めた。 (2) 特別活動の活性化 ・スポーツフェスティバル、新川キャンパスフェスティバル等は、生徒会執行部を中心に企画し、各部活動、各委員会、各クラスの生徒が主体的に参加できるよう工夫した。 ・地域環境美化活動、家庭クラブ活動の実施や校外でのボランティア活動への参加により、生徒に地域社会との繋がりを確認させた。 (3) キャリア支援の充実 ・就業体験への参加を促し、多くの生徒が年間1～2社での就業体験に参加した。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	本校へ入学する生徒は、それぞれ多様な背景を有している。特別な支援が必要な生徒に対し、全教職員が共通の視点を持って支援にあたる体制が整いつつある。学校行事等の特別活動は、多くの生徒が、「自分も役に立てる」という意欲に繋がり、就業体験は、単なる体験に留まらず、「社会の中での自分」という視点で自己を見つめることに繋がっている。 生徒に対してどの場面においても一貫した支援を行い安心して学習できる環境を整え、特別活動や就業体験を通して多くの実践的な社会経験を積む機会を設けることが、生徒の主体的かつ肯定的な進路実現に繋がっていると考えられる。	
対象者(学年・人数など)	全校生徒 124名	
実施実績	4月	特別支援教育研修会①
	5月	グリーンコンサート(文化発表会)①
	6月	家庭クラブ活動①、スポーツフェスティバル(体育大会)
	7月	家庭クラブ活動②
	8月	就業体験①、特別支援教育研修会②
	9月	就業体験②、家庭クラブ活動③
	10月	地域環境美化活動、新川キャンパスフェスティバル(文化祭)
	11月	特別支援教育研修会③、家庭クラブ活動④
	12月	球技大会
	1月	
	2月	特別支援教育研修会④、グリーンコンサート(文化発表会)②、就業体験③
	3月	